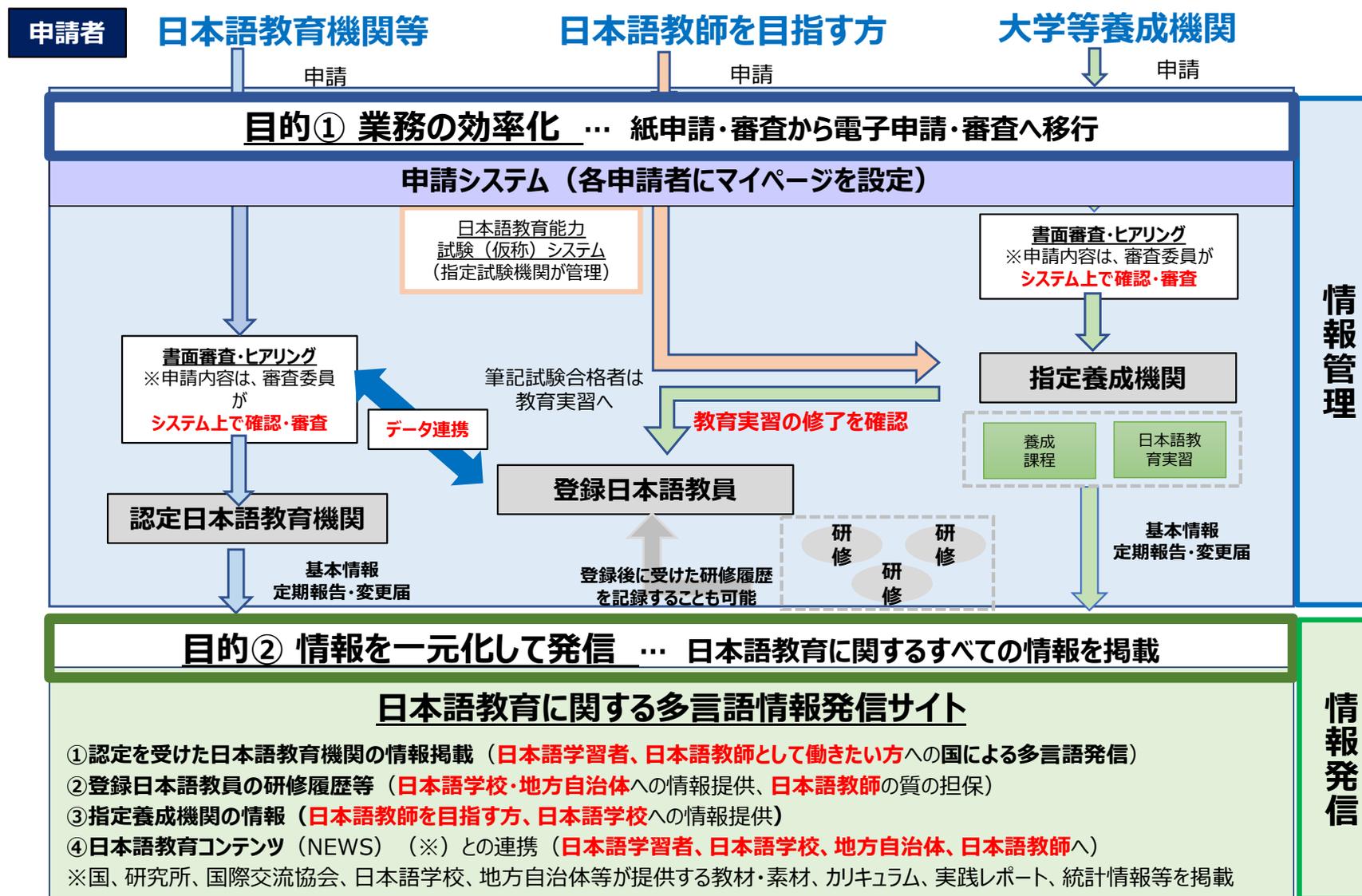


多言語情報発信サイト等について

令和4年11月
文化庁国語課

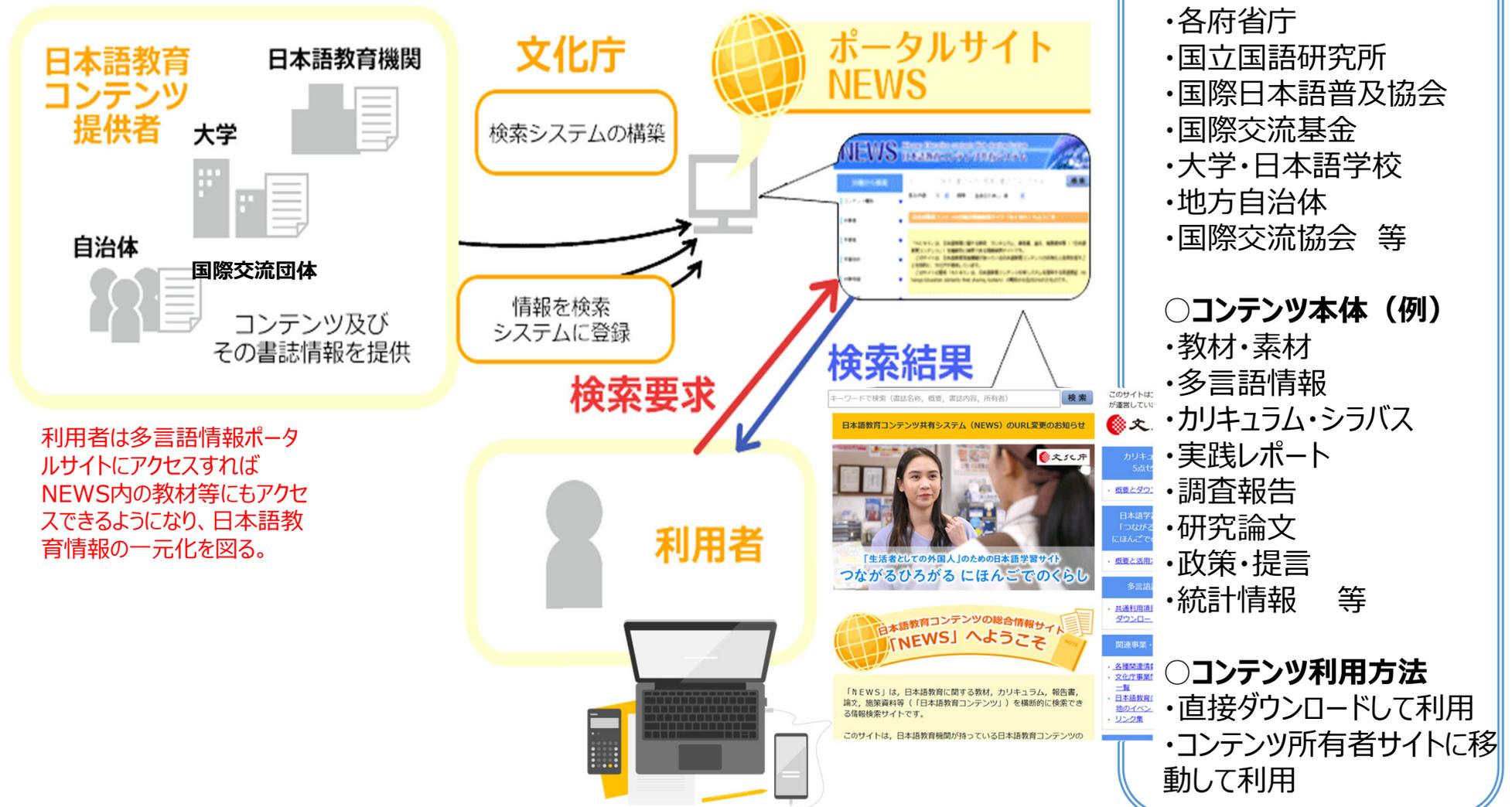
I 日本語教育に関する多言語情報発信サイト イメージ（案）



すべての日本語教育関係者のためのサイトへ（関係省庁・関係機関等のサイトにも掲載・情報発信予定）

(参考)日本語教育コンテンツ共有化推進事業

- 日本語教育を行う機関が持っている教材、カリキュラム、報告書、論文、施策資料等の日本語教育コンテンツを収集し、これらの日本語教育コンテンツを横断的に検索できる情報検索サイトである日本語教育コンテンツ共有システム (NEWS : Nihongo Education contents Web sharing System)を公開・運用。



利用者は多言語情報ポータルサイトにアクセスすればNEWS内の教材等にもアクセスできるようになり、日本語教育情報の一元化を図る。

○コンテンツ所有者 (例)

- ・各府省庁
- ・国立国語研究所
- ・国際日本語普及協会
- ・国際交流基金
- ・大学・日本語学校
- ・地方自治体
- ・国際交流協会 等

○コンテンツ本体 (例)

- ・教材・素材
- ・多言語情報
- ・カリキュラム・シラバス
- ・実践レポート
- ・調査報告
- ・研究論文
- ・政策・提言
- ・統計情報 等

○コンテンツ利用方法

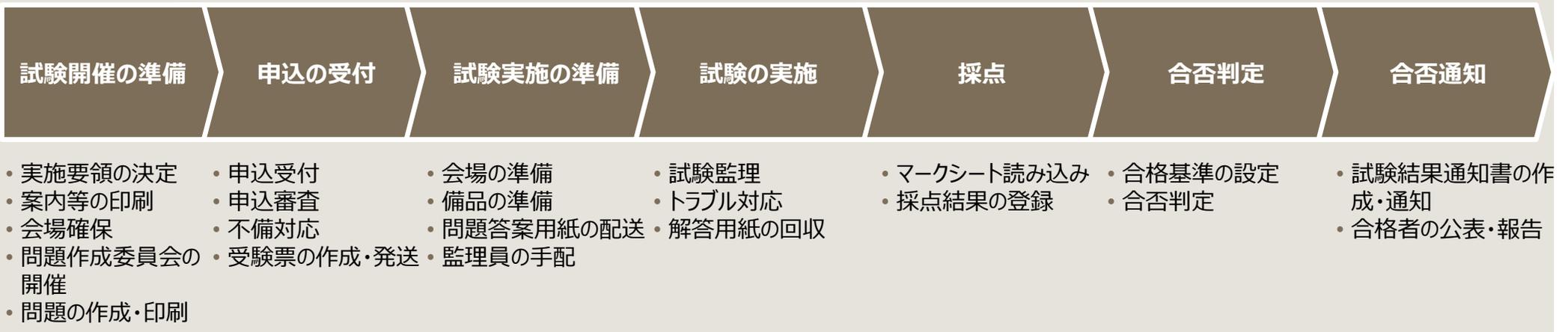
- ・直接ダウンロードして利用
- ・コンテンツ所有者サイトに移動して利用

Ⅱ 資格試験の実施に係るシステム検討状況 イメージ（案）

- 令和4年度の調査研究で要件整理を行っている資格試験のシステム（以下、「試験システム」という。）が対象とする業務範囲は、試験開催準備～試験申込・受付～試験の開催運営～合否判定・通知の試験運営に係る業務。
（資格登録及び資格取得後の自己研鑽研修受講歴記録に係るシステムは、多言語情報発信サイト内に開設予定。）



対象業務（＝試験システムの要件検討範囲※）以下業務のうち、システム化できる範囲について調査研究で整理中

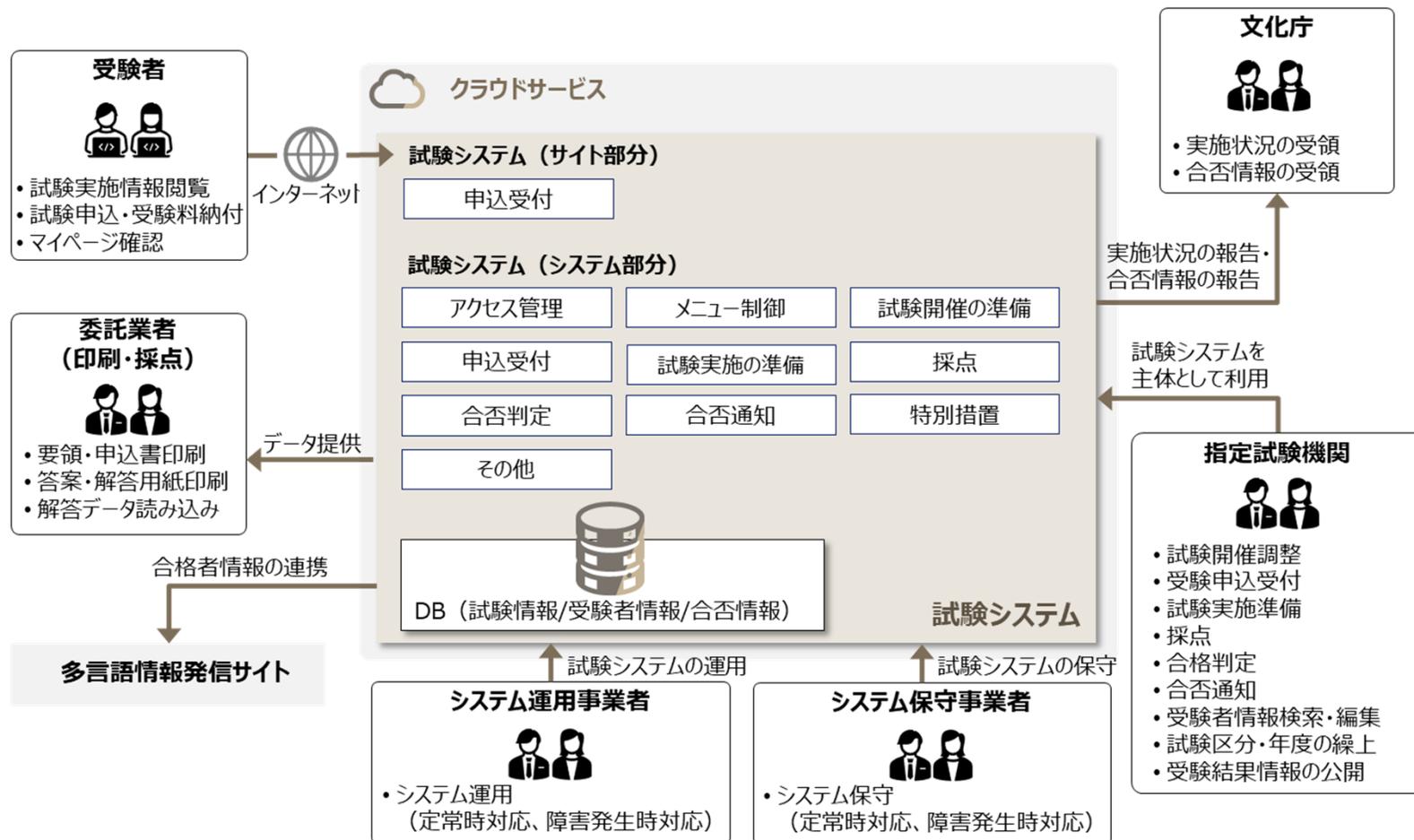


※多言語情報発信サイトに実装予定の登録日本語教員登録システムへの合格者情報の連携も含む。

試験システムの概要図（現時点想定）

- 試験システムはサイト部分とシステム部分で構成される予定。サイト部分には受験希望者が申込をする際の機能を、システム部分には指定試験機関が申込受付や採点・合否情報を管理するための機能を実装する。
- 現時点では、クラウドサービス上に市販のパッケージシステムを活用して構築する想定。

試験システムの概要図（現時点想定）



【調査概要】

調査実施期間：9月15日(木)～9月30日(金)

回収数：

- ①法務省告示校【188/815(23.1%)】および留学生別科【22/47(46.8%)】
- ②都道府県【32/47(68.1%)】・政令指定都市【8/20(40.0%)】、国際交流協会【107/325(32.9%)】
- ③日本語教師【903】
- ④日本語学習者【留学生(1,115)/日本語教室(63)】

※【 】内は、【回収数/配布数(回収率)】を表示、ただし日本語教師、日本学習者は回収数のみ

調査方法：WEBによる調査

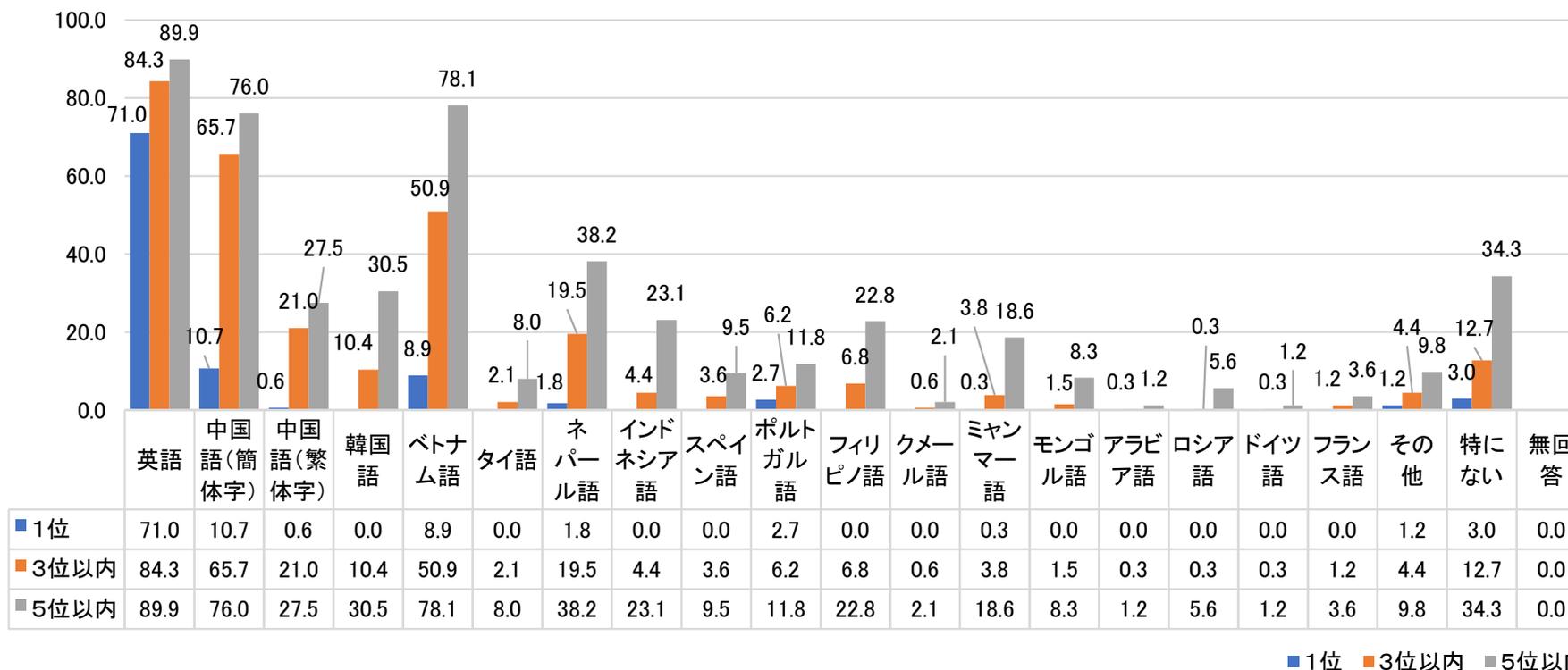
調査目的：新しく構築予定の多言語情報発信サイトをより多くの方に活用いただけるよう、日本語教育機関、日本語教師、日本語学習者を対象に、アンケート調査を実施し、そのニーズを把握する。

【多言語情報サイトの翻訳希望言語】

調査対象：法務省告示校・留学生別科
都道府県・政令指定都市、国際交流協会

<全体>

(n=338)



<5位以内順位>

順位	言語
1	英語
2	ベトナム語
3	中国語(簡体字)
4	ネパール語
5	韓国語
6	中国語(繁体字)
7	インドネシア語
8	フィリピン語
9	ミャンマー語
10	ポルトガル語

<5位以内順位(英語を公用語とする圏除く)>

順位	言語
1	英語
2	ベトナム語
3	中国語(簡体字)
4	ネパール語
5	韓国語
6	中国語(繁体字)
7	インドネシア語
8	ミャンマー語
9	ポルトガル語
10	スペイン語

1位は英語、3位以内では英語・中国語(簡)・ベトナム語、5位以内ではそれにネパール語・韓国語。

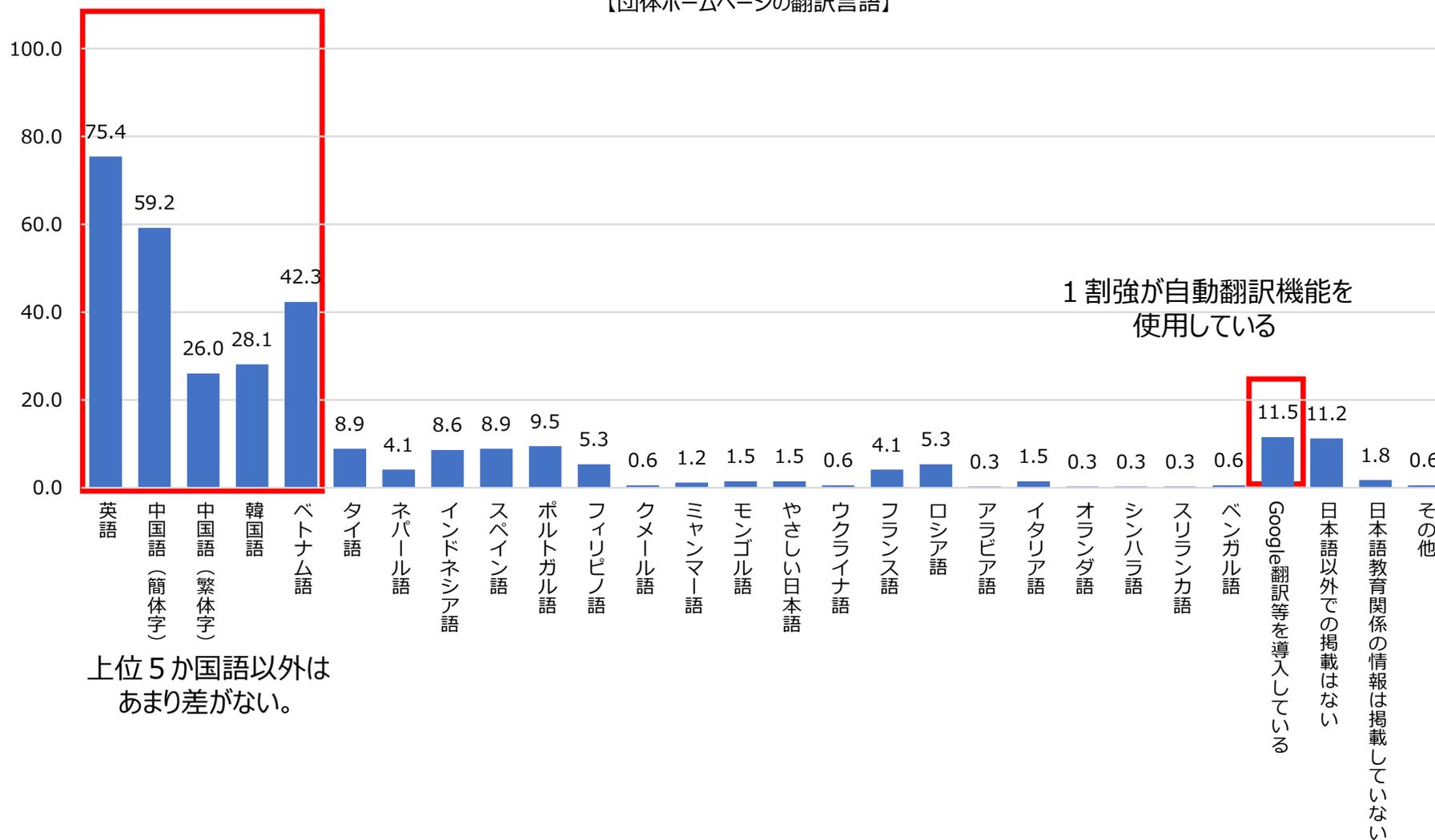
【日本語教育機関の団体ホームページ翻訳言語について】

調査対象：法務省告示校・留学生別科および都道府県・政令指定都市、国際交流協会

＜全体＞

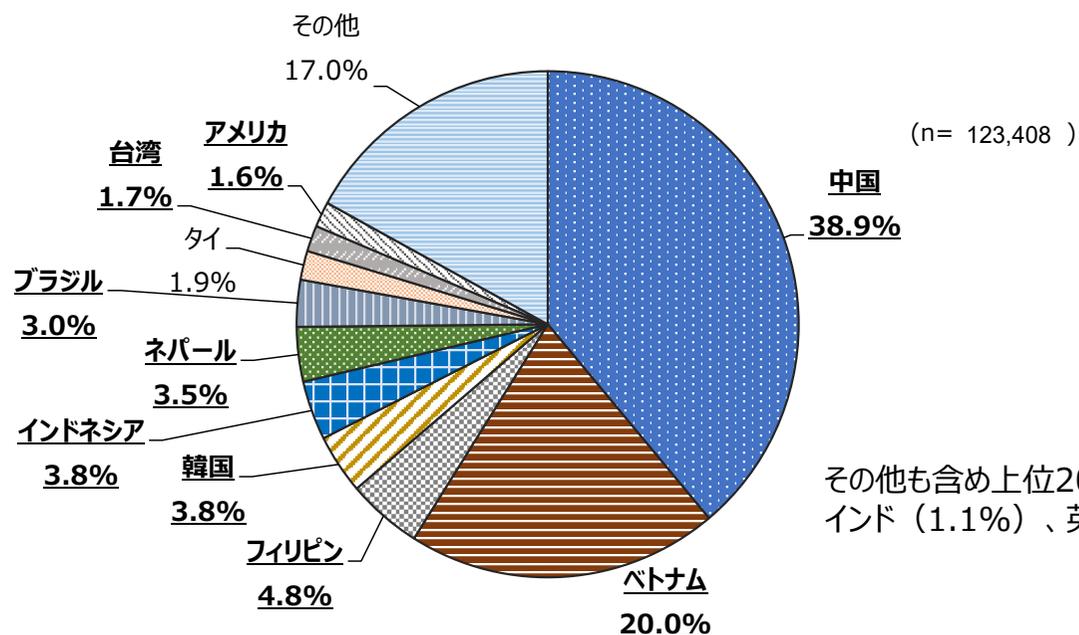
(n=338)

【団体ホームページの翻訳言語】



【多言語情報サイトの翻訳希望言語】

国内の日本語学習者の国籍別割合（令和3年度日本語教育実態調査より）



その他も含め上位20か国のうち、英語圏はアメリカ(1.6%)、フィリピン (4.8%)、インド (1.1%)、英国 (0.6%)

前スライドの上位10言語に対応すると、国内の日本語学習者の82.4%をカバーしていることになる。
（上記グラフ太字部分。その他の中のミャンマーは1.3%）

対応言語数	国内の日本語学習者のカバー率 ※カッコ内は英語圏を含めた数字
翻訳希望言語上位3か国（英語、ベトナム語、中国語（簡体字））	60.5%（67%）
翻訳希望言語上位5か国（英語、ベトナム語、中国語（簡体字）、ネパール語、韓国語）	67.8%(75.9%)
翻訳希望言語上位7か国（英語、ベトナム語、中国語（簡体字）、ネパール語、韓国語、中国語（繁体字）、インドネシア語）	73.3%(81.4%)
翻訳希望言語上位9か国（英語、ベトナム語、中国語（簡体字）、ネパール語、韓国語、中国語（繁体字）、インドネシア語、フィリピン語、ミャンマー語）	79.4%(82.7%)

【日本語学習を希望する外国人への発信情報内容】

＜告示校・留学生別科＞

●掲載したい内容 (n=210)

	内容	%
1	学校等の周辺環境（都市含む）に関する情報	61.9
2	学校等までの交通の利便性	56.2
3	進学先・就職先など実績情報	51.0
4	進学・就職に関するサポート状況の情報	47.6
5	学校・クラスの雰囲気に関すること	42.9
6	住居など暮らし面でのサポートに関する情報	41.4
7	授業内容やレベルに関する情報	40.5

告示校・留学生別科では「学校周辺環境に関する情報」が6割以上で1位。

＜都道府県・政令指定都市、国際交流協会＞

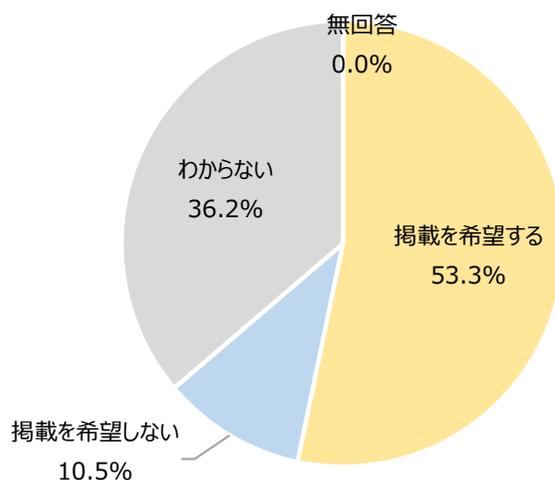
●掲載したい内容 (n=128)

	内容	%
1	教室へのアクセス情報	71.9
2	授業の形態（対面・オンラインなど）	67.2
3	日本語教室のレベルに関する情報	66.4
4	教室や地域での交流イベントに関する情報	46.9
5	使用する日本語学習教材の情報	43.0
6	クラスの雰囲気に関する情報	40.6

都道府県。政令指定都市、国際交流協会では「教室のアクセス情報」が7割以上で1位。

【国の定めた情報以外の各団体で
用意する原稿の掲載希望】 53.3%

(n=210)



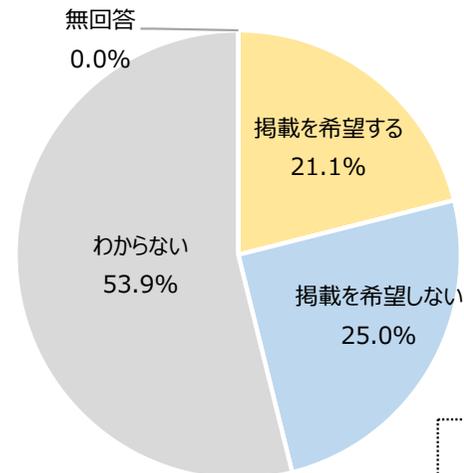
掲載希望は5割以上。

＜掲載希望内容＞

- ・SNS情報（42）
- ・ホームページ（7）
- ・各機関のPR、特徴、特色（4）
- ・学生・在学生の声（3）

【国の定めた情報以外の各団体で
用意する原稿の掲載希望】 21.1%

(n=128)



掲載希望は約2割。

＜掲載希望内容＞

- ・クラスの様子など（7）
- ・SNS情報（5）

(参考) 法律で公表事項として定める予定の事項 (案)

法律で公表事項として定める予定の事項 (案)

【公表事項】(案)

- 機関及び設置者の目的・名称・位置
- 学則
- 施設・設備
- 部科及び課程その他の教育組織に関する事項
- 修業年限・授業日数・時間・学期・休業日
- 賞罰に関する規定
- 寄宿舍に関する事項
- 機関が行う奨学金等の支援
- 開設の年月日
- 教員・職員組織 (教員の学歴等を含む)
- 収容定員
- 日本語教育課程の概要
- 入学・退学・転学・休学・卒業の規定
- 生活上の支援体制
- 授業料・入学料・その他の費用
- 機関のwebページのURL

※今回のアンケートでは、上記事項の他にサイトに掲載を望む情報は何かという設問を用意し、前スライドの結果を得た。
参考として、日本語学習者や日本語教師が日本語教育機関の情報として望むものを尋ね、次スライドの結果を得た。

【日本語教育機関を探す際に必要な情報】

<日本語学習者（留学生）>

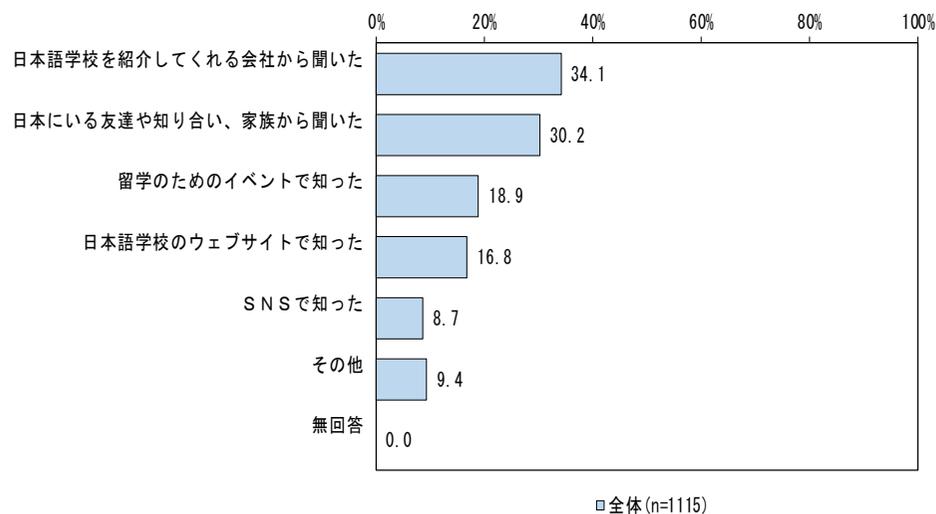
●必要な情報 (n=1,115)

	内容	%
1	卒業生の声や同じ国の人のコメント	36.3
2	授業料のほかに必要な費用ぜんぶでいくらかかるか	31.7
3	進学就職に関するサポート	30.9
4	日本語能力試験（JLPT）や日本留学試験（EJU）受験のサポートがあるかどうか	30.8
5	授業の内容やレベルについて	30.2

※30%以上の項目

卒業生などの生の声や、かかる費用、進学・就職サポートなどが上位に上げられた。

●今、学んでいる日本語学校をどうやって知ったか



<日本語学習者（日本語教室）>

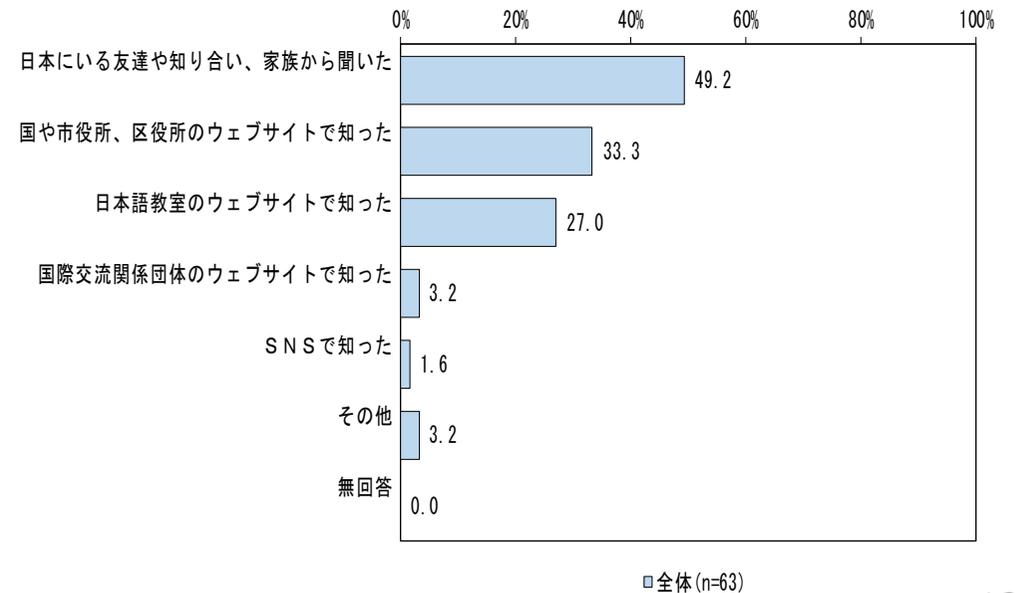
●必要な情報 (n=63)

	内容	%
1	教室がある町や場所のこと	39.7
2	授業の内容やレベルについて	38.1
3	教室までの行き方（電車、バスなどどうやって行くか）	31.7

※30%以上の項目

教室がある町や場所、授業の内容やレベルなどが上位に上げられた。

●今、学んでいる日本語教室をどうやって知ったか



【日本語教育機関に不足していると思われる情報（日本語教師からの回答）】

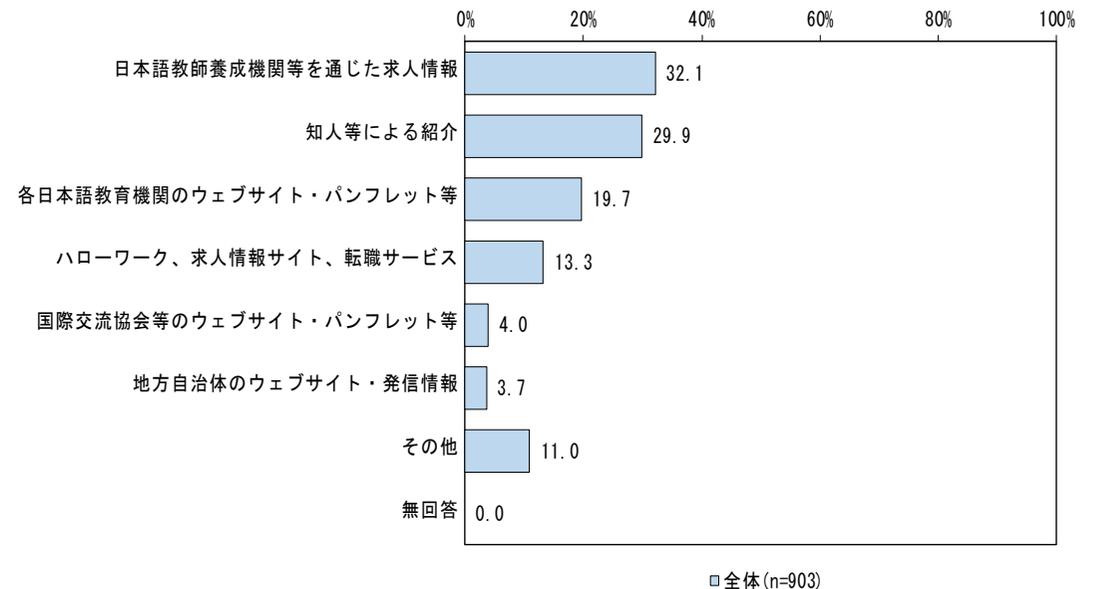
日本語学習を希望する外国人が日本語教育機関（地域日本語教室を含む）を選ぶ際に必要と思われる情報のうち、現在不足している（あまり公開されていない）と思われる情報

(n=903)

	内容	%
1	授業内容やレベルに関する情報	32.8
1	住居など暮らし面でのサポートに関する情報	32.8
3	授業以外に参加できる交流プログラム等の情報	29.6
4	授業料以外に必要な費用	28.2
5	進学・就職に関するサポート状況の情報	26.9
6	進学先・就職先など実績情報	25.0
7	学校等の周辺環境（都市を含む）に関する情報	23.7
7	奨学金に関する情報	23.7
8	学習サポートなどの情報	21.4
9	学校等の利用可能な施設、サービス	20.3
10	日本留学試験（EJU）や日本語能力試験（JLPT）受験のサポートに関すること	19.5
11	国別の在学生の状況	19.2
12	学校・クラスの雰囲気に関すること	18.4
13	担当する教師に関する情報	17.8
14	授業日数・時間数などに関する情報	13.8
15	学校等までの交通の利便性	10.6
	その他	5.5
	わからない	13.1

アンケートで示した選択肢のうち、30%以上が2項目（太字）、29%以上では9項目が「不足している情報」として挙げられた。

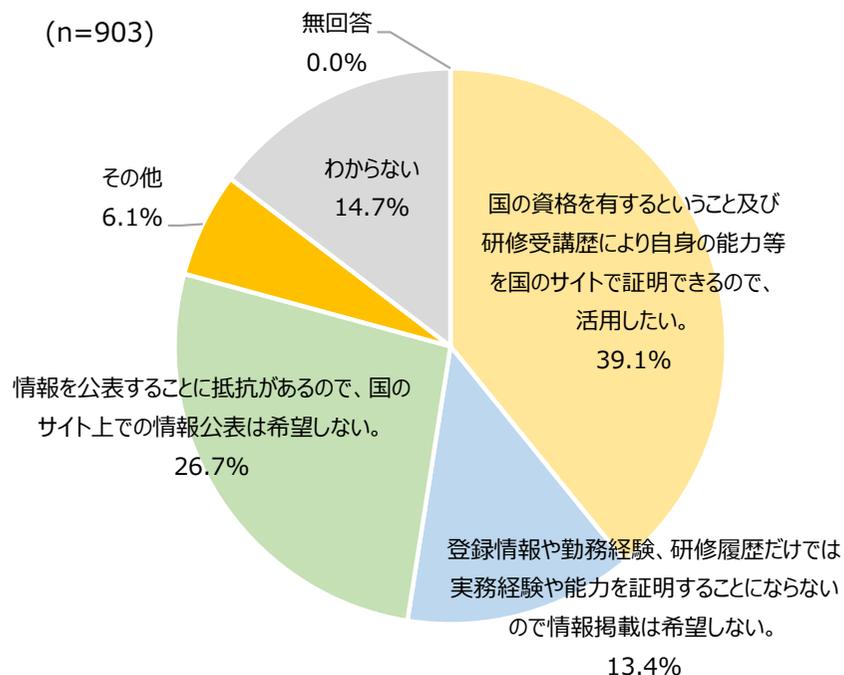
●現在、勤務する日本語教育機関を知ったきっかけ



現在勤務する日本語教育機関を知ったきっかけは、「日本語教師養成機関を通じた求人情報」が3割強と最も高いが、「知人による紹介」も3割近くに上る。

登録日本語教員の情報活用について

<登録日本語教員の情報の活用希望>



登録日本語教員の情報活用については、「活用したいが」「情報掲載・公開を希望しない」が約4割と拮抗している。

<その他の意見>

■ 公開したい（条件付き等で）

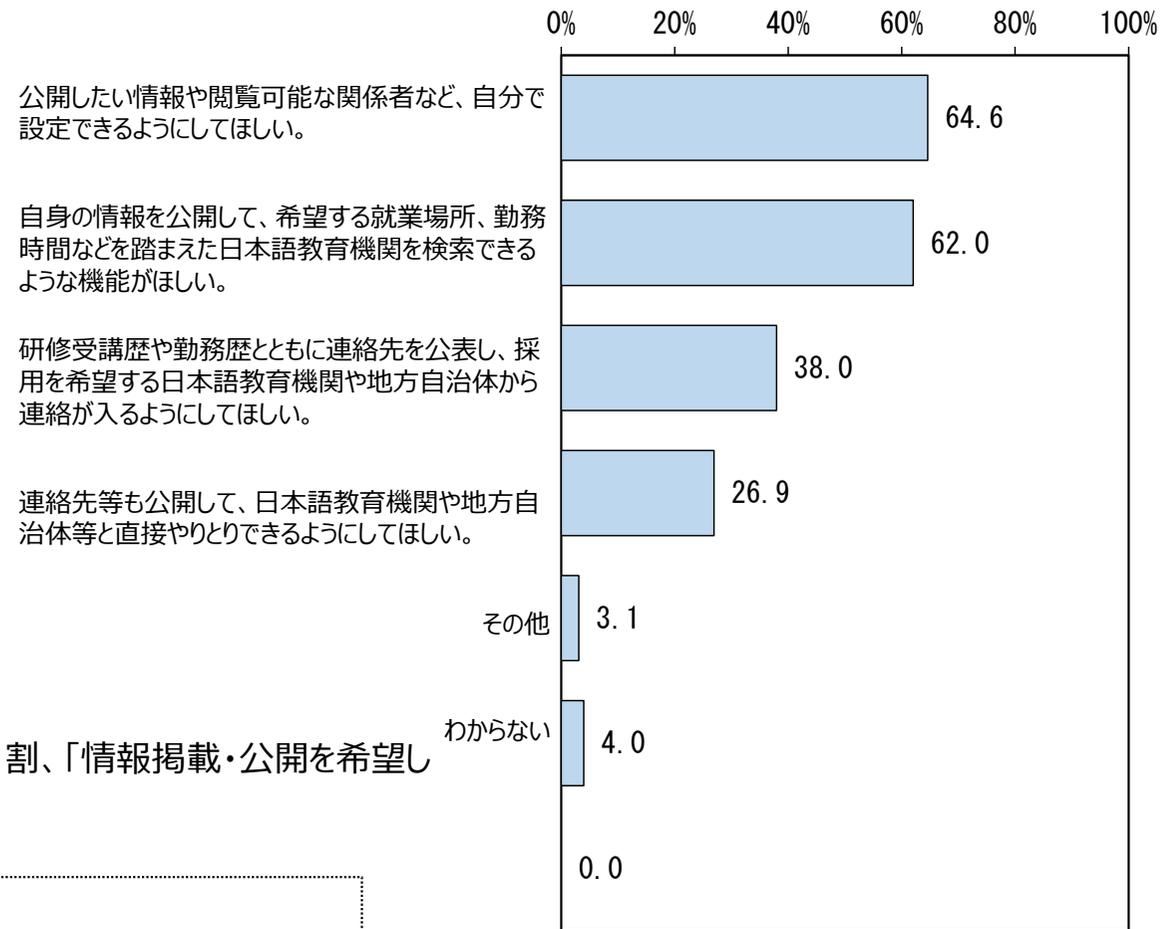
- ・情報の選択ができれば公開したい。
- ・登録情報が教師の能力の証明にはならないが、一定の能力の証明にはなるので公開したい。
- ・活用方法や個人情報の扱いに問題なければ活用したい。

■ 公開したくない、公開に迷う

- ・個人情報などの公開に不安がある。
- ・公開先の範囲が不明なため公開に迷う。
- ・公開情報の制限が可能かどうか分からないので公開に迷う。

<活用したい機能>

(n=353)



□ 全体 (n=353)